

## 豊田市美術館 作品ガイドボランティア研修

日時 2012年12月20日（火） 10:30－17:30

場所 豊田市美術館 講堂

講師 福のり子・伊達隆洋

受講生 豊田市美術館作品ガイドボランティア23名

### 担当者コメント

都筑正敏

豊田市美術館学芸員

1996年に発足した豊田市美術館の作品ガイドボランティア。彼(女)らは1997年、「なぜこれがアートなの？」展の準備のため来日したアメリア・アレナス女史より対話型鑑賞のトレーニングを受けた。以来、来館者を対象に対話を軸にしたギャラリツアーの実践に取り組み、現在では1～4期生までの計25名が活動を展開している。今回、福さんと伊達さんに研修をお願いした目的は、当館のガイドボランティアの活動が15周年を向かえたのを機に、あらためて対話型鑑賞の意義とナビゲイターとしてのスキルを学ぶことにあった。当日の研修の概要は以下のとおりである。

#### 1. 福さんの講義

「アートとは、作品と鑑賞者との間に起こるコミュニケーションである」という対話型鑑賞における基本原理について詳しく学ぶことができた。ボディランゲージを交えながら情熱的な語り口で、“むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく”導いていく福さんの話に魅了された。

#### 2. 伊達さんによる「聞く」ワークショップ

参加者が3人1組となり、コミュニケーション能力をブラッシュアップするための基本となる「聞く」ということに焦点を当てたワークショップを実施。発表者一人ひとりの感想を的確に鋭く分析してわかりやすく検証する伊達さんは、筋金入りの「聞く」名人だと感じた。

#### 3. ナビゲイト演習

ナビゲイトをするための基本的な指導を受けた後、初見の作品をスライドで投影して2名がナビゲイトの演習を行った。「みる、考える、話す、聞く」という、通常、我われが持っている4つのコミュニケーション能力を研ぎ澄ますこと、さらには対話の流れや論点を全体の場を鑑みながら整理していく状況判断能力が、ナビゲイターには問われるということを強く実感した。

15年ぶりに福さんと再会し、懐かしい話に花が咲いた。福さんの美術作品への向き合い方、鑑賞教育に対する姿勢は、今日までまったくブレがない。こうした彼女の一貫したス

タンスは、日本における対話型鑑賞の道標として心強いばかりだ。今回の研修は、いずれも、福さんと伊達さんがACOPにおいて長年にわたり積み上げてきた実践と経験に裏打ちされた説得力のある内容であった。ガイドボランティアのメンバーは、自分たちの活動の目標をあらためて確認できたことだろう。今回学んだことを、いかにして美術館でのトークの現場に活かしていくことができるか、これが今後の課題である。

今後も福さんと伊達さんには、定期的に研修をお願いしたい。そしてまた将来的に、大学と美術館が連携して、作品と鑑賞者の間に、より密接なコミュニケーションを確立していくための共同研究プロジェクトを立ち上げることができたら、素晴らしいことだと考えている。

#### ▼受講者のレポート抜粋

●私は福さんの研修の中で、ナビゲーションをするにあたって「言い換える（パラフレーズ）」というキーワードがとて心に残りました。日頃からお客さんの使われた言葉を繰り返す形での確認はしていましたが、別の言葉に言い換えるという手法は、ガイドする側が正しくお客様の思いを理解できるばかりでなく、他のお客さまにもきちんとお話された方の思いを分かっていただけのポイントだと思いました。

●今回スライドを使った演習で、ナビゲーター役をさせていただき、15年続けてきたからこそみえなくなってしまう自分自身に、改めて真摯に向き合うべきだと痛感した。自分を客観的にみる機会を与えてくださった先生方に心から感謝している。なかでも「聞く」ことの大切さを感じた。鑑賞者の気持ちに想像力を働かせ、鑑賞者の思いをも聞きとることがいかに重要であるか。作品と鑑賞者をつなぐナビゲーターの役割の重要性を再認識し、ギャラリートークが鑑賞者の新たな発見（?→!）につながるよう今後も努力していきたい。

●真実と事実の違い、アートは見る人と作品の間に成立するというお話が印象的でした。漠然と考えていたことなのですぐに納得できましたが、同時にぼんやり考えていることときちんと言葉にして表現することの大きな開きについても考えさせられました。聞くことの大切さ、ポイントを押さえて他者の話を理解する難しさも良く分かりましたが、伊達さんはどの様にしてその術を習得されたのかお聞きしたかった。

●研修中は、疲れを感じませんでしたが、帰ったらどっーと疲れが出て…。余程集中していたのでしょうか。なかなか一筋縄でいかない対話型鑑賞という知的ゲームを、私たちがなぜ15年もやっているのか。福先生方のお話を聞いて、人が好きであること、そして対話型トークをやることによって、「心」を高めていることに気付かされました。

●何よりも福さんの話し方や声のトーン、動き、そして本論への導入のしかたなど、講義の構成そのものが、楽しかったし勉強になりました。知らず知らずに疑問を抱かせる⇒考える⇒意見を言いたくなる福さんの技は誰にでも簡単にまねできるものではないですが、目

標としたいスタイルを見つけられてとても嬉しかったです。

- 聞くことの大切さと難しさを実感できた伊達さんのワークショップ、楽しかったです。どんな意見に対しても必ず適切なコメント返してもらえ、安心感がありました。鑑賞者が自然に自分の意見を言いたくなる雰囲気作りの参考になりました。